

## 第3回美しい多摩川フォトコンテスト審査講評

- 日 時 平成23年1月21日
- 会 場 青梅信用金庫本店会議室
- 審査委員 委員長:佐藤 秀明(日本写真家協会会員)  
委 員:瀬戸 豊彦(風景写真家)  
委 員:榎戸 勝洋(多摩読売写真クラブ副会長)
- 応募作品 322点(116名)  
内訳 ・多摩川の風景・人々部門…238点  
・多摩川夢の桜街道 部門… 84点

### (総評)

フォトコンの広報について、前回まで実施していた周辺駅のポスター掲示を取り止めたこともあって、応募者総数が116名(前回125名)と僅かに減少した。このうちリピーターが45名であったのに対し、今回初めての参加者が71名と、大幅に増えたのが特徴である。皆様のご協力により、このようにフォトコンが盛り上がり、素晴らしい。今後も幅広い年齢層のアマチュア・カメラマンの写真が集まることを期待している。

### (感想・意見)

- 多摩川夢の桜街道部門では、福生の桜の写真が半分位占めていた。青梅の写真クラブでパンフレットを広く配ったが、青梅の桜の写真は1点(梅岩寺)しか入賞しなかったのが残念だ。
- 全体的に力作が多かった。広報活動の変更にもかかわらず、応募者数が殆ど減らなかったのは、事務局の努力の賜物である。
- 6割近い方が、初めての応募者というのは、当フォトコン応募者の裾野の広がりを感させた。今後に期待が持てる。
- 桜の写真に素晴らしいものが多く見受けられた。また、人物の入った写真で、良い作品が多かった。
- 桜の写真は、目標がはっきりしているので、良い作品が多かった。桜に対する想いは、人それぞれであり、見るものに撮影者の想いが伝わってくる。

(反省・課題)

- 来年は少なくとも、当フォーラムの事務局がある青梅信用金庫の青梅市内店舗にフォトコンのパンフレットを置き、もっと青梅の桜の写真が応募されるようにしてほしい。
- 風景部門にもいい写真が多かったが、福生周辺で撮影されたものが目立った。応募者はもう少し撮影範囲を広げて欲しい。
- 多摩川自体を撮り込んだ風景写真で、もっと素晴らしいものが出てくることを期待する。
- 川の写真を撮ることは大変難しい。何度も川に通い、素晴らしい作品をものになっている人もいるが、一方、川に行っても、被写体を見つけられず、何を撮りたいのか解らない写真も相当数見受けられた。多摩川の写真と目標を決めたとしても、撮影範囲は広く、被写体は山のようにある。撮影者は何を撮るのかを決めて、しっかり撮影に取り組んで欲しい。
- もっと写真のプリントにこだわって欲しい。自宅のプリンターで簡単に出力し、応募してくる作品がある。素晴らしい写真データを持っていても、写真のプリントに階調が生かされていない作品があり、大変残念に思う。

以 上